シラバス　　作成日　2024.04.01

科目名	医療ICT	担当教員名	幸 康正	☑ 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年 2	単位数(時間数) 1単位（ 15時間）

実施時期	4 月 ～ 9 月	授業形態	講義	○	演習	△	実習		実技		○は主、△は併用

教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本　歯科技工管理学」:医歯薬出版

授業の概要とねらい

コンピュータが使える歯科医療技術者として活躍するために、コンピュータに関する基礎的な知識と利用法を理解する。
必要なデータや情報を有効活用するために、「インターネット等を利用した情報収集」「開示に関する基本的知識」「技能および態度」を修得し、ICTリテラシーが向上することで医療機器類の取り扱い方法・技術を修得する。

到達目標

1）情報収集
①コンピュータを構成する基本的装置の名前を列挙できる。 ②ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトを使用できる。
③ソフトウェアの使用上のルールとマナーについて説明できる。 ④ネットワークセキュリティーと使用上のルールについて説明できる。
2）医療ICTリテラシー
①歯科用CAD/CAMの構成する基本的装置の名前を列挙できる。 ②歯科用CAD/CAM使用時の作業の流れを説明できる。
③歯科用CAD/CAM機器を操作することができる。

授業計画

授業項目・内容	時間数（コマ）	教育活動(教材、指導上の注意点)
コンピュータを構成する基本的装置	1	コンピュータを構成する基本的装置の名前を列挙でき、デジタル歯科で使用するソフトを操作できる知識を修得する。 ソフトウェアの使用上のルールとマナーについて説明でき、ネットワークセキュリティーと使用上のルールについての理解を深める。 毎回、復習課題を課す。
デジタル歯科の概要	1	
ソフトウェアの使用上のルールとマナー	1	
ネットワークセキュリティーと使用上のルール	1	
歯科用CAD/CAMの構成する基本的装置	1	歯科用CAD/CAMの構成する基本的装置や、歯科用CAD/CAM使用時の作業の流れを理解でき、歯科用CAD/CAM機器を操作を理解する。
CAD/CAMを活用した歯科技工	1	
デジタル歯科用ソフトの概要	1	
歯科用CAD/CAM機器の基本操作	2	
歯科用CADソフトの操作	2	
歯科用CAMソフトの操作	2	
加工機の操作	2	
合　計	15	

時間外学習について

教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。復習課題は、期日までに提出し確認および添削指導を受けること。

成績評価の方法及び評価割合について

定期試験の結果70%、復習課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点（100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の復習課題があるものはD（不可）とする。

その他（科目と実務経験との関連性について）

歯科技工（診療）施設の実務経験からの知見をもとに、デジタル歯科技工の基礎知識、システム、機能修復に関する講義、および関連機器の取り扱いを教授する。

シラバス　　作成日　2024.04.01

科目名	医療ICT（演習）	担当教員名	野﨑 拓哉	☑ 実務経験
学科名	歯科技工　学科	学年	2	単位数(時間数)　2単位（ 30時間）

実施時期	4 月 ～ 9 月	授業形態	講義		演習	○	実習		実技		○は主、△は併用

教科書及び参考書	
	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本　歯科技工実習」：医歯薬出版 全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本　歯冠修復技工学」：医歯薬出版【第2版】 全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本　有床義歯技工学」：医歯薬出版【第2版】

授業の概要とねらい

コンピュータが使える歯科医療技術者として活躍するために、コンピュータに関する基礎的な知識と利用法を理解する。
歯科用CAD/CAM装置を利用した歯科補綴物製作の基礎を理解し、その技術（操作方法）を修得する。

到達目標

1）歯科用CAD/CAM
①歯科用CAD/CAMの概要を説明することができる。
②歯科用CAD/CAMを使用したスキャニングからモデリングまでの作業ができる。

授業計画

授業項目・内容	時間数（コマ）	教育活動(教材、指導上の注意点）
コンピュータの基本的操作	2	SHOFU　S-WEVE（3Shape）E-3を使用し、基本的使用法や、スキャニング方法、保健医療適応補綴物のCAD設計を習熟させる。 尚、CAM（加工）は総合歯科演習Ⅱにおいて、産学連携企業において行う。 反復練習を課題とする。
歯科用CAD/CAMの基礎	4	
スキャニング基礎	8	
CAD設計デザイン	12	
CAD/CAM冠完成　＊加工は「総合歯科演習Ⅱ」で行う	4	
合　計	30	

時間外学習について

教科書の事前予習を含め、講義時間の他に15時間の自学を要する。課題は、データを期日までに提出し、確認および添削指導を受けること。

成績評価の方法及び評価割合について

定期試験(実技)の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点（100点満点)を算出する。90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。

その他（科目と実務経験との関連性について）

歯科技工（診療）施設の実務経験からの知見をもとに、デジタル歯科技工での機能修復に関する講義、および関連機器の取り扱いを教授す

シラバス　　作成日　202404.01

科目名	社会学	担当教員名	野見山和貴/安部好美	□ 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年 2	単位数(時間数) 2単位（ 30時間）
実施時期	4 月 ～ 9 月	授業形態	講義 ○ 演習 △ 実習 実技	○は主、△は併用
教科書及び参考書				

授業の概要とねらい

自身の置かれた社会的な位置づけを、社会人、医療人として自覚し社会生活を営む上で、他者の意見を整理し自分の意見を相手に伝達するための基本的知識、技能および態度を修得する。医療現場でのモチベーションとインセンティブについて理解する。

到達目標

1）コミュニケーション
　①コミュニケーションの定義を説明できる ②コミュニケーションの種類を分類できる
2）接遇とマナー
　①正しい言葉遣いができる ②適切な伝達法を選択できる ③適切な電話対応を実践できる ④TPOに適した身だしなみを身に付ける
3）ヒューマンリレーションズ
　①一方通行と双方通行のコミュニケーションを説明できる ②グループワークを説明できる
4）コミュニケーションスキル
　①環境設定の重要性を説明できる ②傾聴のスキルを身に付ける ③承認のスキルを身に付ける ④質問法のスキルを身に付ける
5）歯科医療現場での内発的動機付け
　①歯科技工の業界構造を説明できる ②モチベーションの構築

授業計画

授業項目・内容	時間数（コマ）	教育活動(教材、指導上の注意点）
コミュニケーションの定義	2	コミュニケーションの定義を説明できる。 コミュニケーションの種類を分類できる。
コミュニケーションの種類	2	
接遇とマナー　正しい言葉遣い	2	社会人、医療人として社会生活を営む上での、正しい言葉遣い、適切な伝達法、適切な電話対応、TPOに適した身だしなみ、などを身に付ける。
適切な伝達法	2	
適切な電話対応	2	
TPOに適した身だしなみ	2	
ヒューマンリレーションズ　一方通行と双方通行のコミュニケーション	2	一方通行と双方通行のコミュニケーションを説明でき、グループワークを説明できる。
グループワーク	4	
コミュニケーションスキル　環境設定の重要性	2	他者の意見を整理し自分の意見を相手に伝達するための基本的知識、技能および態度として、環境設定の重要性や、傾聴・承認のスキル、質問法のスキル、などを身に付ける。
傾聴のスキル	2	
承認のスキル	2	
質問法のスキル	2	
歯科医療界と歯科技工の業界構造	2	歯科技工の業界構造を理解する。
医療従事者としてのモチベーション	2	歯科医療現場における内発的動機付け。
		毎回、レポート課題を課す。
合　計	30	

時間外学習について

事前予習を含め、講義時間の他に60時間の自学を要する。また、教授された知識、技能を復習課題として反復し蓄積すること。指摘された箇所については再評価をもらうこと。

成績評価の方法及び評価割合について

レポートの評価70%、レポート課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点（100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可）とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出のレポート課題があるものはD（不可）とする。

その他（科目と実務経験との関連性について）

シラバス　　作成日　2024.04.01

科目名	歯科技工管理学(特講)			担当教員名	衛藤有沙		☑ 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年	2	単位数(時間数)		1単位(15 時間)
実施時期	4 月 ～ 9 月	授業形態	講義	○	演習		実習		実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工管理学」:医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 7 関係法規:医歯薬出版　歯科技工士国家試験問題集:医歯薬出版						

授業の概要とねらい

歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。

到達目標

歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	最新 歯科技工士教本 歯科技工管理学:医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 7 関係法規:医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集:医歯薬出版 歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に、歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、法律の知識を修得する。 毎回、復習課題を課す。
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
合　計	15	

時間外学習について

教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。

成績評価の方法及び評価割合について

定期試験の結果70%、復習課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の復習課題があるものはD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

歯科臨床での経験から必要となる法的知識やコンプライアンス、医道倫理、歯科衛生行政、等の内容を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。

シラバス　　作成日　2024.04.01

科目名	解剖学（特講）	担当教員名	安部好美	☑ 実務経験
学科名	歯科技工　学科	学年	2	単位数(時間数)　1単位（15時間）
実施時期	4 月 ～ 9 月	授業形態	講義 ○ 演習 実習 実技	○は主、△は併用
教科書及び参考書	最新 歯科技工士教本　口腔顎顔面解剖学：医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策　2　歯の解剖学：医歯薬 歯科技工士国家試験問題集：医歯薬出版			

授業の概要とねらい

歯科技工士国家試験（学説試験）の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する

到達目標

歯科技工士国家試験合格（合格基準60%以上）

授業計画

授業項目・内容	時間数（コマ）	教育活動(教材、指導上の注意点)
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	最新 歯科技工士教本　口腔顎顔面解剖学：医歯薬出版　要点チェック歯科技工士国家試験対策　2　歯の解剖学　：医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集：医歯薬出版 歯科技工士国家試験合格（合格基準60%以上）を目標に、歯科技工士国家試験（学説試験）の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、解剖学的知識を修得する。 毎回、課題を課す。
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
合　計	15	

時間外学習について

教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。
誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。

成績評価の方法及び評価割合について

定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点（100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可）とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD（不可）とする。

その他（科目と実務経験との関連性について）

歯科臨床施設等の臨床現場で得た多くの「口腔内および頭頚部顎顔面領域」の知見より、歯科技工臨床で必要となる歯牙形態の知識、および顎口腔系の解剖学的基礎的知識を、歯科技工士国家試験（学説試験）の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。

シラバス　　作成日　2024.04.01

科目名	歯牙解剖学（実習Ⅱ）	担当教員名	野見山和貴	☑ 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年 2	単位数(時間数) 2単位（75時間）
実施時期	4 月 ～ 3 月	授業形態	講義 △ 演習	実習 ○ 実技 ○は主、△は併用
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本　口腔顎顔面解剖学」：医歯薬出版 IVY版「Tooth Carving Guide Book」			

授業の概要とねらい

天然歯が持つ形態、表面性状等、リアリティーを追求した技術の修得。
歯科技工士国家試験（実地試験）の出題頻度・傾向と、全国歯科技工士教育協議会スタンダードモデルや国家試験出題基準に照らし修得する。

到達目標

1）歯型彫刻（臨床的）
①全ての歯を、天然歯の特徴を再現し石膏彫刻できる　②指定された時間内に彫刻できる ③天然歯特有の特徴を説明できる
④エンジンを使用して形態再現と、天然歯表現ができる ⑤全ての部位をサンプル観察することなく時間内に彫刻できる（30min/1本）
⑥全国歯科技工士教育協議会認定試験合格（合格基準60%以上）　⑦歯科技工士国家試験（実地）合格（合格基準60%以上）
2）歯のデッサン
①天然歯の形態的特徴を描記できる ②全ての部位をサンプル観察することなく時間内にデッサンできる
③歯科技工士国家試験（実地）合格（合格基準60%以上）

授業計画

授業項目・内容	時間数（コマ）	教育活動(教材、指導上の注意点)
（前期）		全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本　口腔顎顔面解剖学」：医歯薬出版 IVY版「Tooth Carving Guide Book」 永久歯歯冠彫刻模型C-PRO3A001 歯牙咬合模型ANA3003-UL-D28 スパチュラ　ラバーボウル　石膏棒ゴム陰型ノギス 天然歯が持つ形態、表面性状等、リアリティーを追求した技術の修得。
上顎右側第一小臼歯（天然歯）	3	
上顎左側第一大臼歯（天然歯）	3	
デンタルショー出品作品製作	6	
上顎右側中切歯（天然歯）	3	
上顎左側犬歯（天然歯）	3	
上顎左側第二小臼歯（天然歯）	3	
上顎右側第一小臼歯（天然歯）	3	
下顎右側第一大臼歯（天然歯）	3	
下顎右側第二小臼歯（天然歯）	3	
下顎左側第一大臼歯（天然歯）	3	
タイムトライアル（模擬試験形式）	6	形態再現性を向上させると共に、時間短縮を図る。
G1GP対応	6	外部コンテスト対応
（後期）		全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本　口腔顎顔面解剖学」：医歯薬出版 IVY版「Tooth Carving Guide Book」 永久歯歯冠彫刻模型C-PRO3A001 歯牙咬合模型ANA3003-UL-D28 スパチュラ　ラバーボウル　石膏棒ゴム陰型ノギス 歯科技工士国家試験（実地試験）の出題頻度・傾向と、全国歯科技工士教育協議会スタンダードモデルや国家試験出題基準に照らし修得する。
上顎前歯部（上顎右側中切歯・上顎右側側切歯・上顎右側犬歯）	2	
下顎前歯部（下顎右側中切歯・下顎右側側切歯・下顎右側犬歯）	2	
上顎左側第一大臼歯	1	
下顎右側第一大臼歯	1	
上顎左側中切歯	1	
上顎右側犬歯	1	
上顎右側第一小臼歯	1	
上顎左側第一小臼歯	1	
上顎右側第二小臼歯	1	
下顎左側第二小臼歯	1	
下顎右側第一小臼歯	1	
下顎左側第一小臼歯	1	
タイムトライアル（模擬試験形式・デッサン含む）	16	形態再現性を向上させると共に、時間短縮を図る。
		全期間を通じ、反復練習を課題として課す。
合　計	75	

時間外学習について

教科書の事前予習を含め、実習時間の他に15時間の自学を要する。また、指示された課題を行い期日までに提出し確認および添削指導を受けること。

成績評価の方法及び評価割合について

定期試験（実技）の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点（100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可）とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD（不可）とする。

歯科診療施設等での臨床現場で得た多くの「口腔内の器質的形態」の知見より、歯科技工臨床で必要となる「基礎的知識」、「技術」、「手技」、および臨床応用術を教授する。臨床レベルでのスピードとクオリティを指導することで、国家試験合格に必要な技術が修得できる。

シラバス　　作成日　2024.04.01

科目名	顎口腔機能学（特講）	担当教員名	野見山 和貴	☑ 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年 2	単位数(時間数) 1単位（15 時間）

実施時期	4 月 ～ 9 月	授業形態	講義	○	演習		実習		実技		○は主、△は併用

教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本　顎口腔機能学」：医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策　3　顎口腔機能学 ：医歯薬出版　　歯科技工士国家試験問題集：医歯薬出版

授業の概要とねらい

歯科技工士国家試験（学説試験）の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する

到達目標

歯科技工士国家試験合格（合格基準60%以上）

授業計画

授業項目・内容	時間数（コマ）	教育活動(教材、指導上の注意点）
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本　顎口腔機能学」：医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策　3　顎口腔機能学 ：医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集：医歯薬出版 歯科技工士国家試験合格（合格基準60%以上）を目標に、歯科技工士国家試験（学説試験）の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、顎口腔機能学的知識を修得する。 毎回、復習を課題として課す。
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
合　計	15	

時間外学習について

教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。
誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。

成績評価の方法及び評価割合について

定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点（100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可）とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD（不可）とする。

その他（科目と実務経験との関連性について）

歯科診療施設等での臨床現場での補綴物製作時に得た多くの知見より、補綴修復時の下顎機能運動の基礎となる内容を歯科技工士国家試験（学説試験）の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。

シラバス　　作成日　2024.04.01

科目名	顎口腔機能学(実習)	担当教員名	安部好美/野見山和貴	☑ 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年 2	単位数(時間数) 1単位(30 時間)
実施時期	4 月 ～ 9 月	授業形態	講義 △ 演習 実習 ○ 実技	○は主、△は併用
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 顎口腔機能学」:医歯薬出版 全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工実習」:医歯薬出版			

授業の概要とねらい

下顎運動と上下歯列の位置関係(下顎位)と、機能運動時の下顎運動路(顆路、切歯路)と咬合状態を分析する。
調節性咬合器の使用手順(フェイスボウトランスファー、チェックバイト)および咬合分析診断手順を修得する。
口腔内環境を知り、自身の口腔衛生の向上の意識と技術を高める。

到達目標

1)下顎運動と上下歯列の位置関係
①診断用模型(スタディモデル)を製作できる ②診断用模型より口腔内状態を説明できる ③咬合に関する平面、基準点を説明できる
2)調節性咬合器と咬合分析
①フェイスボウトランスファーを説明できる ②調節性咬合器の取り扱いができる ③咬合分析内容を説明できる

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
下顎運動と下顎位の基礎	2	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 顎口腔機能学」:医歯薬出版
調節性咬合器の使用手順(フェイスボウトランスファー、チェックバイト)および咬合分析診断手順	4	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工実習」:医歯薬出版
口腔内診断・口腔清掃法	4	歯牙咬合模型 ANA3003-UL-D28
印象最得 模型製作	8	ニッシン シンプルマネキンⅢセット SHOFU プロアーチⅡG
フェイスボウトランスファー、咬合器装着、	6	SHOFU プロアーチフェースボウ スパチュラ・ラバーボウル・印象トレー
チェックバイト採得	2	各自の上下顎印象を行い、下顎運動と上下歯列の位置関係(下顎位)と、機能運動時の下顎運動路(顆路、切歯路)と咬合状態を分析する。 調節性咬合器の使用手順(フェイスボウトランスファー、チェックバイト)および咬合分析診断手順を修得する。
顆路角測定、咬合器調整	2	
咬合分析	2	
		項目ごとにレポートおよびプレゼンテーションの作成を課題として課す。
合　計	30	

時間外学習について

教科書の事前予習を含め、実習時間の他に15時間の自学を要する。また、指示された課題を行い期日までに提出し確認および添削指導を受けること。

成績評価の方法及び評価割合について

課題提出率・評価70%、プレゼンテーションの評価20%及び出席10%による100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題や未発表のプレゼンテーションがあるものはD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

歯科診療施設等での臨床現場での補綴物製作時に得た多くの知見より、補綴修復時の下顎機能運動の基礎となる知識を修得させ、歯科臨床で行われる咬合分析を体験する事で機能修復の技術を教授する。

シラバス　　作成日　2024.04.01

科目名	歯科理工学（特講）			担当教員名	野見山 和貴		☑ 実務経験	
学科名	歯科技工	学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位（15　時間）		
実施時期	4 月 ～ 9 月	授業形態	講義	○	演習		実習		実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本　歯科理工学」：医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策　1　歯科理工学：医歯薬 歯科技工士国家試験問題集：医歯薬出版							

授業の概要とねらい

歯科技工士国家試験（学説試験）の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。

到達目標

歯科技工士国家試験合格（合格基準60%以上）

授業計画

授業項目・内容	時間数（コマ）	教育活動(教材、指導上の注意点)
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本　歯科理工学」：医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策　1　歯科理工学：医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集：医歯薬出版 歯科技工士国家試験合格（合格基準60%以上）を目標に、歯科技工士国家試験（学説試験）の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、歯科理工学的知識を修得する。 毎回、復習のため課題を課す。
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
合　計	16	

時間外学習について

教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。
誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。

成績評価の方法及び評価割合について

定定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点（100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可）とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD（不可）とする。

その他（科目と実務経験との関連性について）

歯科臨床で得られたの知見より、歯科材料の化学・物理的性質、組成、特性、使用法などの基礎知識や、機器の取り扱いなどに関する内容を歯科技工士国家試験（学説試験）の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。

シラバス　　作成日　2024.04.01

科目名	有床義歯技工学(特講)	担当教員名	野見山和貴	☑ 実務経験
学科名	歯科技工　学科	学年	2	単位数(時間数) 1単位(15 時間)

実施時期	4 月 ～ 9 月	授業形態	講義	○	演習		実習		実技		○は主、△は併用

教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新　歯科技工士教本　有床義歯技工学」:医歯薬出版、「歯科技工士国家試験問題集」:医歯薬出版 「要点チェック歯科技工士国家試験対策4有床義歯技工学」:医歯薬出版

授業の概要とねらい

歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。

到達目標

歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	全国歯科技工士教育協議会編「最新歯科技工士教本有床義歯技工学」:医歯薬出版 「歯科技工士国家試験問題集」:医歯薬出版 「要点チェック歯科技工士国家試験対策4有床義歯技工学」:医歯薬出版
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、矯正歯科技工学的知識を修得する。
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	毎回、復習として課題を課す。
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
合　計	15	

時間外学習について

教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。

成績評価の方法及び評価割合について

定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

歯科臨床で得られたの知見より、臨床での有床義歯の基礎知識や製作時の歯科技工操作、製作技術を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。

シラバス　　作成日　2024.04.01

科目名	有床義歯技工学(実習Ⅱ)	担当教員名	衛藤有沙	☑ 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年 2	単位数(時間数) 4単位（ 150 時間）
実施時期	4 月 ～ 3 月	授業形態	講義 △ 演習 実習 ○ 実技	○は主、△は併用
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 有床義歯技工学」:医歯薬出版 全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工実習」:医歯薬出版			

授業の概要とねらい

有床義歯補綴治療における歯科技工技術(全部床義歯・部分床義歯の制作や、義歯制作過程で使用される、個人トレー、咬合床)を習得できる。

到達目標

以下の事項の説明および技工操作ができる。
1)金属床義歯(部分床義歯)の症例検討・設計・製作
①症例検討 ②症例に応じた設計 ③金属床義歯の制作
2)口蓋板装着時の口腔内変化
①症例検討 ②摂食嚥下状態の変化 ③発音・構音の変化
3)テレスコープ＆アタッチメント義歯
①ミリングテレスコープ支台装置の製作 ②アタッチメント(OPアンカー)の製作 ③流し込みレジン床
4)ワイヤーフレームワーク
①ワイヤークラスプ屈曲 ②補強線屈曲 ③仮着・ロウ着
5)全国歯科技工士教育協議会認定試験対策(全部床義歯人工歯排列・歯肉形成120min／1ケース)

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
(前期)		
金属床義歯(部分床)概説	1	金属床(部分床義歯)の材料など概説を理解する
金属床義歯(部分床)の症例検討	3	金属床(部分床義歯)の適応例を理解する
金属床義歯(部分床)設計	1	金属床(部分床義歯)の適切な設計を理解する
サベイング、ブロックアウト、リリーフ	4	サベイング、ブロックアウト、リリーフなどを適切に行える
副印象・耐火模型製作	2	副印象・耐火模型の意義と目的を理解し製作できる
ワックスアップ	5	金属床(部分床義歯)に関わるワックスアップを行える
スプルーイング・埋没	3	鋳造のための適切なスプルーイングと埋没を行える
焼却・鋳造	2	機器の取り扱いを理解し、安全に焼却・鋳造が行える
取り出し・研磨	10	審美的・機能的な金属床のための取り出し・研磨を行える
プレゼンテーション作成	5	製作物をプレゼンテーションするための準備を行う
症例発表	3	症例発表を正しく行える能力を養う
口腔内印象採得・模型製作	2	模型に再現した口腔内の状態や解剖学的指標を確認する
症例検討・観察	2	観察力を養い症例検討を行える力を高める
口蓋板製作	3	正しい手順に従い口蓋板を製作する
機能試験(装着感、摂食嚥下、発音・構音)	2	様々な機能試験を体験し義歯使用者への理解を深める
検証	3	機能試験の体験を振り返り検証する
プレゼンテーション作成	5	プレゼンテーションを行う力を高める
症例発表	3	適切な仕方で症例発表を行える
実技試験対策3回(模型製作を含む)	12	実技試験合格ための力を養成する
(後期)		
テレスコープ・アタッチメント支台装置概説	1	テレスコープ・アタッチメントの構造や機能を理解する
作業模型製作・咬合器装着	5	義歯製作のため適切に模型製作と咬合器装着を行う
支台装置(舌側ミリングブレイジングアーム、OPアンカー)製作	15	先端的な支台装置への理解を深め製作を行う
人工歯排列・歯肉形成	5	適切な手順で人工歯排列・歯肉形成を行う
埋没(流し込み法)・流蝋・重合・研磨	8	流し込み法における埋没・流蝋・重合・研磨が行える
ワイヤークラスプ・フレームワーク(屈曲)	15	ワイヤークラスプ・フレームワークを適切に屈曲できる
ワイヤークラスプ・フレームワーク(ロウ着、研磨)	5	ワイヤークラスプ・フレームワークのロウ着・研磨を行える
総義歯人工歯排列・歯肉形成(120min/1ケース)	25	総義歯人工歯排列・歯肉形成を120分で行う力を養う
合　計	150	全期間を通じ、課題を課す。

時間外学習について

教科書の事前予習を含め、実習時間の他30時間の自学を要する。また、指示された課題を行い期日までに提出し確認及び添削指導を受けること。

成績評価の方法及び評価割合について

定期試験(実技)の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。・提出物及び出席による総合評価。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。

臨床現場で得た多くの知見より、歯科臨床において有床義歯製作の難症例にも対応できる高度な製作技術手技を教授する。

シラバス　　作成日　2024.04.01

科目名	歯冠修復技工学(特講)			担当教員名	久保　慶奈		☑ 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年	2	単位数(時間数)		1 単位（ 15 時間）
実施時期	4 月 ～ 9 月	授業形態	講義	○	演習		実習		実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本　歯冠修復技工学」：医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 5 歯冠修復技工学：医歯薬出版　歯科技工士国家試験問題集：医歯薬出版						

授業の概要とねらい

歯科技工士国家試験（学説試験）の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する。

到達目標

歯科技工士国家試験合格（合格基準60％以上）

授業計画

授業項目・内容	時間数（コマ）	教育活動(教材、指導上の注意点)
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	最新 歯科技工士教本　歯冠修復技工学：医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策　5　歯冠修復技工学：医歯薬出版 歯科技工士国家試験問題集：医歯薬出版 歯科技工士国家試験合格（合格基準60％以上）を目標に、歯科技工士国家試験（学説試験）の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、歯冠修復技工の知識を修得する。 毎回、復習内容の課題を課す。
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
合　計	15	

時間外学習について

教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。

成績評価の方法及び評価割合について

定期試験の結果70％、課題提出率10％及び出席率20％の100％で評価し、評価点（100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可）とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD（不可）とする。

その他（科目と実務経験との関連性について）

歯科診療施設での臨床現場で得た多くの知見より、歯科臨床での歯冠修復補綴物製作の知識、クラウン・ブリッジの適応、インプラント学、CAD/CAM、に関する内容を、歯科技工士国家試験（学説試験）の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。

シラバス　　作成日　2024.04.01

科目名	歯冠修復技工学(実習Ⅱ)			担当教員名	久保　慶奈			☑ 実務経験		
学科名	歯科技工	学科	学年	2	単位数(時間数)	4単位（　150　時間）				
実施時期	4　月　～　3　月	授業形態	講義	△	演習		実習	○	実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本　歯冠修復技工学」:医歯薬出版 全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本　歯科技工実習」:医歯薬出版									

授業の概要とねらい

歯冠修復治療において高度な歯科技工技術が必要とされる補綴装置について、その知識と製作技術を修得する。

到達目標

以下の事項の説明および技工操作ができる。

1）シェードティキング

①シェードティキングの概要。 ②シェードテイク操作。 ③色彩の三要素。 ④プレゼンテーション。

2）オールセラミクス冠（プレッサブル）の製作・色調再現。

①オールセラミクスクラウンの製作。 ②色調再現。

3）陶材焼付金属冠

①陶材焼付金属冠のメタルワーク。 ②陶材築盛。 ③陶材の形態修正。 ④色調修正。

4）フルマウス修復

①模型製作。 ②支台歯形成。 ③メタルワーク。 ④前装。

授業計画

授業項目・内容	時間数（コマ）	教育活動(教材、指導上の注意点）
（前期）		
シェードティキング	15	機器の取扱い説明、グループごとにそれぞれの研究内容を決めレポートにまとめ発表
プレゼンテーション作成	8	
症例発表	2	
プレッサブル・オールセラミック	15	それぞれの材料、道具、機器の取扱い 製作方法を実践
陶材焼付金属冠	25	
実技試験対策5回（模型製作を含む）タイムトライアル	10	制限時間内での試験一連の流れを何度も行う。
（後期）		
フルマウス	50	個々で製作物を決め、製作し、レポートにまとめ発表
プレゼンテーション作成	8	
症例発表	2	
実技試験対策10回（模型製作を含む）タイムトライアル	15	制限時間内での試験一連の流れを何度も行う。
		全期間を通じ、反復練習および時間内に製作できなかった歯科技工物の仕上げを課題とする。
合　　計	150	

時間外学習について

教科書の事前予習を含め、実習時間の他に30時間の自学を要する。また、指示された課題を行い期日までに提出し確認および添削指導を受けること。

成績評価の方法及び評価割合について

定期試験（実技）の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点（100点満点)を算出する。
評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可）とする。
尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD（不可）とする。

その他（科目と実務経験との関連性について）

臨床現場で得た多くの知見より、歯科臨床における難症例にも対応できる高度な製作技術を教授する。

シラバス　　作成日　2024.04.01

科目名	矯正歯科歯技工学(特講)			担当教員名	久保慶奈			☑ 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年	2	単位数(時間数)	1単位(15 時間)		
実施時期	4 月 ～ 9 月	授業形態	講義	○	演習		実習		実技		○は主、△は併用
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新歯科技工士教本矯正歯科技工学」:医歯薬出版、「歯科技工士国家試験問題集」:医歯薬出版 「要点チェック歯科技工士国家試験対策6矯正歯科技工学・小児歯科技工学」:医歯薬出版							

授業の概要とねらい

歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する

到達目標

歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	全国歯科技工士教育協議会編「最新歯科技工士教本矯正歯科技工学」:医歯薬出版 「歯科技工士国家試験問題集」:医歯薬出版 「要点チェック歯科技工士国家試験対策6矯正歯科技工学・小児歯科技工学」:医歯薬出版
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、矯正歯科技工学的知識を修得する。
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	毎回、復習のため課題を課す。
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
合　計	15	

時間外学習について

教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。

成績評価の方法及び評価割合について

定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

歯科診療施設での実務経験から得られた知見により、矯正歯科臨床の流れや、歯科技工士の役割・製作する装置に関する基礎的な知識を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。

シラバス　　作成日　2024.04.01

科目名	小児歯科技工学(特講)	担当教員名	久保慶奈	☑ 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年 2	単位数(時間数) 1単位(15 時間)

実施時期	4 月 ～ 9 月	授業形態	講義	○	演習		実習		実技		○は主、△は併用

教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新歯科技工士教本小児歯科技工学」:医歯薬出版、 「歯科技工士国家試験問題集」:医歯薬出版 「要点チェック歯科技工士国家試験対策6矯正歯科技工学・小児歯科技工学」:医歯薬出版

授業の概要とねらい

歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし修得する

到達目標

歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)

授業計画

授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	全国歯科技工士教育協議会編「最新歯科技工士教本小児歯科技工学」:医歯薬出版
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	「歯科技工士国家試験問題集」:医歯薬出版
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	「要点チェック歯科技工士国家試験対策6矯正歯科技工学・小児歯科技工学」:医歯薬出版
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	歯科技工士国家試験合格(合格基準60%以上)を目標に歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし弱点強化を行い、矯正歯科技工学的知識を修得する。 毎回、復習のため課題を課す。
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
歯科技工士国家試験出題頻度・傾向の分析、重点項目強化	1	
合　計	15	

時間外学習について

教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。
誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。

成績評価の方法及び評価割合について

定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

歯科診療施設等での臨床現場で得た多くの知見より、小児期における成長・発達歯科分野の基礎知識と、小児歯科臨床で用いられる咬合誘導装置の適応症例を歯科技工士国家試験(学説試験)の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。

シラバス　　作成日　2024.04.01

科目名	総合歯科演習（Ⅱ）	担当教員名	産学連携企業	☑ 実務経験
学科名	歯科技工　学科	学年	2	単位数(時間数)　3単位（ 90時間）
実施時期	5 月 ～ 6 月	授業形態	講義	演習 ○ 実習 △ 実技 ○は主、△は併用
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本　歯科技工実習」:医歯薬出版			

授業の概要とねらい

歯科技工士教育における臨地体験（インターンシップ）は、学内教育で習得した知識・技術を臨床現場で統合することを目的とする。
歯科医療専門職に求められる適切な行動・態度、責任感を臨床現場体験で修得する。
歯科技工は実学であるため、学内教育で学んだ知識・技術を臨床の場で体験し統合することで、両者の相乗効果によってより高い学習効果を期待すると共に、先進機器を使用した歯科技工技術を体験する。
歯科技工事業所を3箇所ローティーションする。

到達目標

インターンシップ事前教育
　①実習先での社会性（挨拶、礼儀、対応など）。 ②積極性。 ③歯科技工知識の統合。 ④CBEの実施。 ⑤OSCEの実施。
インターンシップ（8:50～15:50）
　①医療ICT（演習）で得られた加工データの出力。

授業計画

授業項目・内容	時間数（コマ）	教育活動(教材、指導上の注意点)
インターンシップ予備演習	12	臨地体験（インターンシップ）で、学内教育で習得した知識・技術を臨床現場で統合することを目的とし、歯科医療専門職に求められる適切な行動・態度、責任感を臨床現場体験で修得する。 学内教育で学んだ知識・技術を臨床の場で体験し統合することで、両者の相乗効果によってより高い学習効果を期待すると共に、先進機器を使用した歯科技工技術を体験する。 歯科技工事業所を3箇所ローティーションする。 各ルーティンワークを体験する。
OSCE	5	
CBE	1	
インターンシップ1	18	
出校①	6	
インターンシップ2	18	
出校②	6	
インターンシップ3	18	
出校③(プレゼンテーション)	6	
		実習終了後には、実習内容をレポートにまとめ提出する事。また、プレゼンテーションにまとめて発表を行うこととし、その作成は課題とする。
合　計	90	

時間外学習について

教科書の事前予習を含めて自学を要する。また、指示された課題を行い期日までに提出し確認および添削指導を受けること。

成績評価の方法及び評価割合について

実習評価70% 、レポート提出率10%及びプレゼンテーションの評価10%、出席率10%の100%で評価し、評価点（100点満点)を算出する。
評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可）とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出のレポートまたは、未発表のプレゼンテーションがあるものはD（不可）とする。

その他（科目と実務経験との関連性について）

臨床現場での標準的な歯科技工作業のルーティーンを理解させ、高度先進的な歯科技工技術を学習させる。

シラバス　　作成日　2024.04.01

科目名	包括的歯科技工実習（Ⅱ）	担当教員名	野見山 和貴	☑ 実務経験
学科名	歯科技工　学科	学年	2	単位数(時間数)	5単位（150時間）

実施時期	10 月 ～ 3 月	授業形態	講義	△	演習		実習	○	実技		○は主、△は併用

教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本　歯科技工実習」：医歯薬出版

授業の概要とねらい

各分野で得られた知識・技術を臨床の場面に適用し、知識を統合できる素地を養う。
理論と実践を結び付けて理解できる能力と技術力を修得する。
作業用模型と生体との差異を判断できる観察力と判断力を修得する。

到達目標

以下の項目を、PBLおよびアクティブラーニングで研究できる。
1）臨床力（理論・判断力）の強化…臨床応用歯科技工
　①技工指示を症例に応用判断できる。 ②症例をそれぞれの指示通りに製作できる。
2）チェアサイドラーニング
　①口腔内観察（診査）が理解できる。 ②口腔内と模型との違いが判断できる。 ③口腔に関する生理学的知識を有する。

授業計画

授業項目・内容	時間数（コマ）	教育活動(教材、指導上の注意点）
チェアサイドラーニング　口腔内診査、一般検査、生理学的検査、	40	チェアサイドラーニングにおいて、口腔内観察（診査）を行い、口腔内と模型との差異を判断すると共に、口腔に関する生理学的知識を養う。
臨床応用 （症例1） 症例分析、補綴計画の検討、設計	3	臨床力（理論・判断力）を強化し、技工指示を症例に応用判断できる能力と、症例をそれぞれの指示通りに製作できる技術を養う。また、症例を通した設計、製作のコンセプトをプレゼンテーションできる能力を養う。症例の設計や製作法の学習はPBLを基本とする。
臨床応用 （症例1） 補綴修復物製作	24	
臨床応用 （症例1） 検証	1	
臨床応用 （症例1） プレゼンテーション作成	3	
臨床応用 （症例1） 症例発表	2	
臨床応用 （症例2） 症例分析、補綴計画の検討、設計	3	臨床力（理論・判断力）を強化し、技工指示を症例に応用判断できる能力と、症例をそれぞれの指示通りに製作できる技術を養う。 また、症例を通した設計、製作のコンセプトをプレゼンテーションできる能力を養う。 症例の設計や製作法の学習はPBLを基本とする。
臨床応用 （症例2） 補綴修復物製作	40	
臨床応用 （症例2） 検証	1	
臨床応用 （症例2） プレゼンテーション作成	3	
臨床応用 （症例2） 症例発表	2	
臨床研究	28	
		時間内に終わらなかった補綴修復物の製作やプレゼンテーションは課題として期日までに仕上げておくこととする。また、手技の反復練習を課題と課す。
合　計	150	

時間外学習について

教科書の事前予習を含め、実習時間の他75時間の自学を要する。また、指示された課題を行い期日までに提出し確認および添削指導を受けること。

成績評価の方法及び評価割合について

補綴修復物の評価および課題提出率70%、プレゼンテーションの出来10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点（100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可）とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の歯科技工物及び課題、未発表のプレゼンテーションがあるものはD（不可）とする。

その他（科目と実務経験との関連性について）

歯科診療施設等での臨床現場で得た多くの臨床応用の知見より、臨床における多様な症例に対応できる高い知識と技術を教授し、主な歯科技工技術の迅速性を養う。口腔内をはじめとする生体情報判断できる能力を養う。

シラバス　　作成日　2024.04.01

科目名	国家試験ゼミ	担当教員名	安部　好美	☑ 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年 2	単位数(時間数) 5単位（ 80時間）

実施時期	10 月 ～ 3 月	授業形態	講義	△	演習	○	実習		実技		○は主、△は併用

教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本」全教科目：医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策　全教科目：医歯薬出版

授業の概要とねらい

国家試験ゼミにおいて、歯科技工士国家試験（学説試験）の出題頻度・傾向の分析と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らした学力を修得する。
国家試験模擬試験（学内/医歯薬出版/全国歯科技工士教育協議会）

到達目標

歯科技工士国家試験合格（合格基準60%以上）

授業計画

授業項目・内容	時間数（コマ）	教育活動(教材、指導上の注意点)
第 1 回　校内模擬試験、および解説	5	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本」全教科目：医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策　全教科目：医歯薬出版 国家試験ゼミにおいて、国家試験模擬試験（学内/医歯薬出版/全国歯科技工士教育協議会）を通し、歯科技工士国家試験合格（合格基準60%以上）まで学力を向上させる。歯科技工士国家試験（学説試験）の出題頻度・傾向の分析と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らした学力を修得する。 全期間に渡り、国家試験過去問題および模擬試験の復習を課題とする。
第 2 回　校内模擬試験、および解説	5	
第 3 回　校内模擬試験、および解説	5	
第 4 回　校内模擬試験、および解説	5	
第 1 回　全国歯科技工士学校協会　模擬試験 および解説	5	
第 5 回　校内模擬試験、および解説	5	
第 6 回　校内模擬試験、および解説	5	
第 2 回　全国歯科技工士学校協会　模擬試験　および解説	5	
第 7 回　校内模擬試験、および解説	5	
第 8 回　校内模擬試験、および解説	5	
第 1 回　医歯薬出版　全国一斉模擬試験　および解説	5	
第 9 回　校内模擬試験、および解説	5	
第 10 回　校内模擬試験、および解説	5	
第 11 回　校内模擬試験、および解説	5	
第 3 回　全国歯科技工士学校協会　模擬試験　および解説	5	
第 12 回　校内模擬試験、および解説	5	
合　計	80	

時間外学習について

教科書、問題集の事前予習を含め、講義時間の他に145時間の自学を要する。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。

成績評価の方法及び評価割合について

卒業試験の結果80%および出席率20%の100%で評価し、評価点（100点満点)を算出する。評価は、評価点が 90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可）とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD（不可）とする。

その他（科目と実務経験との関連性について）

歯科臨床で得られたの知見より、歯科技工に関する総合的な知識を歯科技工士国家試験（学説試験）の出題頻度・傾向と、モデルコアカリキュラムや国家試験出題基準に照らし教授する。